

用意するもの



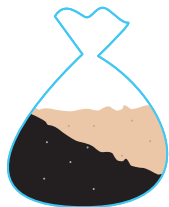
底に敷くダンボール

ダンボール箱

- ◎みかん箱程度の大きさ
- ◎防水加工のしていないもの
- ◎ダンボールが二重構造のもの

基材

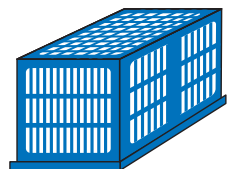
- ◎ココピート15ℓ
- ◎もみ殻くん炭10ℓ



紙製のクラフトテープ

風通しの良い台

- ◎高さのあるものが良い！



スコップ

- ◎ダンボールコンポスト専用！



準備しよう！



- 1 ダンボール箱の底面や側面の、継ぎ目や隙間に、クラフトテープで目張りをする。



- 2 風通しの良い台の上に設置する。



- 3 基材を入れてよく混ぜる。

生ごみを入れよう！

- 1 真ん中に穴を掘り、生ごみを入れる。



- 2 生ごみが隠れるくらい基材をかぶせる。

- 3 虫よけや保温のため、上からキャップをしっかりとかぶせる。



- 4 次の日、前日の生ごみと基材を、真ん中部分だけでよく混ぜ合わせる。そして再び真ん中に穴を掘り、新たな生ごみを入れ、基材をかぶせる。

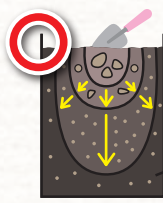
※スコップはダンボール箱の中で保管すること。

★水分をバランスよく保つ★

生ごみを分解してくれるのは、酸素が好きな微生物（好気性菌）。好気性菌の働きには、水分が必要です！でも水分が多すぎると好気性菌は息ができない！中身を手で握ってみて、形が崩れない程度が適切な水分量です！

★生ごみは真ん中に入れて、その周りだけを混ぜる★

生ごみがダンボール箱全体に散らばると、乾燥して分解が進みません。基材の真ん中を掘って生ごみを入れてほぐし、その生ごみの周りだけを混ぜていきます。



真ん中に生ごみを入れ、だんだん生ごみを混ぜるスペースを広げる

はじっこでは生ごみを混ぜない



生ごみが分散すると乾燥して生ごみがカラカラになってしまう

ダンボールコンポストにチャレンジ！

川畑家・長屋家のダンボールコンポストの記録



STEP 1 入れる(約3か月間)



早速、生ごみを入れてみました！

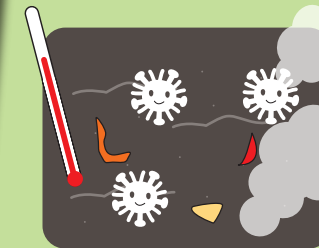


STEP 2 混ぜる(約3か月間)

貝殻以外の生ごみを入れることができるよ！みかんの皮、肉や魚の骨も入れてます！



分解が進むと、白色のカビが出てきたり、温度が上がって湯気が出てくることもあるよ！



寒い日には、お湯の入ったペットボトルを入れて、温めました！

STEP 3 熟成(約3週間)



生ごみを入れ始めてから、約3か月経つと、全体が黒くなり、ほのかにアンモニア臭がしてきて、分解しなくなってきました。

熟成期間は3週間。生ごみの投入はしないで、週に1回、水分調整をしました。中身を手で握ってみて、形が崩れない程度になるように、水を全体に注いで、よく混ぜました。⇒3週間経つと、土の香りがしてきました！

時々、触ってみよう！ 中身を手でギュッと握って開く

× 乾燥している × 水っぽい



形がまとまらない。手を開くと、基材がくずれる



指の形がくっきり残り、手や指に基材がベタッとくっついてしまう。



○ちょうどいい 手を開くと、基材のかたまりがまとまっている。